

安房トンネル

全長 4.5 キロメートルの安房トンネルは中部山岳国立公園境界内の北アルプスを貫き、国道 158 号線上で長野県と岐阜県を結んでいます。長野県と岐阜県は互いに隣接しているにもかかわらず、1997 年にこのトンネルが開通するまでは、二つの地域を分断する山地がその行き来を比較的困難にしていました。東日本とみなされる長野県の住民と、西日本の始まりを示す岐阜県の住民の間の文化や意識の違いは、トンネル開通後の今日でもなお根強く残っています。

安房峠は国道 158 号線上の山越え部にあり、県境の真上に位置しますが、その下の山々の内部では激しい火山活動が起こっており、それがこのトンネルの工事を困難にしました。初期調査が始まったのはトンネルが開通する何十年も前、1964 年のことでした。その設計図は、岩石の間に閉じ込められた火山ガスのたまり場にドリルで穴を開けてしまうことを避けるため、いくつかの急カーブを含んでいました。作業は長い時間をかけて慎重に行われましたが、それにもかかわらず 1995 年に水蒸気爆発で四人の作業員が死亡するという悲劇が起きました。この爆発は近くにあった中之湯温泉旅館にも影響を及ぼし、この旅館は 1998 年に別の場所で営業を再開することになりました。安房トンネルは一般車両の通行に開放されています。